



資料 1

教育普及機能の強化について

神奈川県生涯学習審議会
博物館検討部会

1 議論の整理

行ってみたいと思える施設、様々な学習機会を提供できる施設、そして持続可能な運営ができる施設を目指すために

① 来てもらうためには

- ▶ デジタル技術の活用など、**楽しく分かりやすい展示**
- ▶ 参加体験型のイベントなど、**主体的な学びを支援**

これまでの
議論

② 学習機会の提供の充実を図るには

- ▶ **来館しなくても学習できる機会**の提供（オンラインの活用）
- ▶ 教育機関・民間団体との**連携強化**
（収蔵資料の活用・出張講座の実施など）

これからの
議論

③ 知ってもらうためには

- ▶ 多様な主体と連携した**広報力の強化**
外部資源の獲得・活用（応援してもらえる仲間づくり）

④ 活動を正しく評価するためには

- ▶ ①～③をはじめとする様々な活動を**正しく評価する仕組み（指標）**の構築

2 アンケート集計結果（概要）

- 調査目的
学習機会の提供の充実や博物館の認知度の向上について検討するため、
また、子ども世代の利用が家族や周囲を巻き込む起点になるという視点から、
学校連携をはじめとする子ども関連の言及がなされた前回の審議会を踏まえて
子どもの意見や利用実態を調査した。
- 調査対象
県立の博物館・美術館に来館した子ども（小・中学生向け）
- 調査日
①令和8年3月14日（土）、15日（日）
場所：生命の星・地球博物館
（ミューズ・フェスタ2026において配布）
②令和8年3月19日（木）～4月5日（日）
場所：金沢文庫、近代美術館葉山館、生命の星・地球博物館
（アンケート用紙と回収ボックスを設置）
- 回答方法
回答用紙に記入 又は 電子申請システムに入力

2 アンケート集計結果（回答者の属性）

- 総回答者数は359人。うち、ミューズ・フェスタでの回収率が最も高く、平常開館日の近代美術館と生命の星・地球博物館が概ね同数となっている。
- 年齢別の回答者数では、小学生（7歳～12歳）が最も多い。
- 施設利用頻度は、平常開館時は1回目の利用が多いが、ミューズ・フェスタ時（イベント時）にはリピーターの利用が多くなっている。

【表1】回答者数・年齢の内訳（問1より・単数回答）

	合計	1～6歳	7～9歳	10～12歳	13～15歳	16歳～	未記入
金沢文庫	4	0	1	3	0	0	0
近代美術館	48	0	10	13	24	0	1
生命の星・地球博物館	57	3	26	13	6	3	6
生命の星・地球博物館 ミューズ・フェスタ2026	250	60	94	47	14	20	15
合計	359	63	131	76	44	23	22

【表2】利用回数（問4より・単数回答）

	1回目 (今日がはじめて)	2回目	3回以上	未記入・ 複数回答
金沢文庫	2	2	0	0
近代美術館	20	15	12	1
生命の星・地球博物館	30	8	19	0
生命の星・地球博物館 ミューズ・フェスタ2026	71	64	112	3
合計	123	89	143	4

2 アンケート集計結果（広報戦略）

- 家族での利用が最も多く、保護者と来館している場合が多い。
- 情報源は保護者である場合が最も多く、インターネットやSNSで情報収集する割合が比較的高い傾向にある。

【表3】 同伴者の内訳（問2より・単数回答）

	ひとりで	おうちの人と	友だちと	学校で	その他	未記入
金沢文庫	1	3	0	0	0	0
近代美術館	0	35	3	9	2	0
生命の星・地球博物館	0	49	4	1	7	0
生命の星・地球博物館 ミューズ・フェスタ2026	0	215	23	1	14	4
合計	1	302	30	11	23	4

【表4】 情報源の内訳（問3より・単数回答）

	チラシや ポスターで見た	インターネット やSNSで見た	おうちの人に 聞いた	友だちに 聞いた	学校の先生に 聞いた	その他	未記入
金沢文庫	1	0	2	0	0	1	0
近代美術館	4	5	29	1	6	3	0
生命の星・地球博物館	2	7	37	2	1	8	0
生命の星・地球博物館 ミューズ・フェスタ2026	9	52	134	19	2	32	6
合計	16	64	202	22	9	44	6

2 アンケート集計結果（事業戦略①）

【表5】回答者が求めている博物館事業（問6より・複数回答可）

	96	145	186	138	177	60	45	66	64	12
	しずかに 落ち着いて 楽しみたい	気軽にお しゃべり しながら 楽しみたい	くわしく なって知識 を広げたい	写真を撮っ て思い出に のこしたい	イベントに 参加したい （ものづく り体験や じっけん教 室など）	展示品をな おしたり、 しまったり している様 子を見ても いい	スマホやタ ブレットを 活用して、 おうちでも 博物館・美 術館のコン テンツを楽し みたい	博物館・美 術館で働い ている人の 仕事を知り たい	学校の授業 で、博物 館・美術館 を利用した い	その他
合計	96	145	186	138	177	60	45	66	64	12
金沢文庫	2	2	1	1	0	1	1	0	1	0
近代美術館	22	19	16	26	17	6	6	7	17	3
生命の星・ 地球博物館	16	23	31	28	23	15	13	14	13	4
ミューズ・ フェスタ2026	56	101	138	83	137	38	25	45	33	5

2 アンケート集計結果（事業戦略①）

- 「詳しくなること」「写真を撮ること」「イベントに参加すること」については各施設で票が集まっている。
- 施設の雰囲気については、近代美術館は静かに楽しみたい層が会話しながら楽しみたい層をやや上回っており、生命の星・地球博物館は会話しながら楽しみたい層が上回っている。
（なお、金沢文庫は静かに楽しみたい層と会話しながら楽しみたい層が同数である。）
- どちらも需要があるため、施設の特性に合わせて環境を整備する必要がある。

【表5 一部抜粋】回答者が求めている博物館事業（問6より・複数回答可）

	しずかに 落ち着いて 楽しみたい	気軽に しゃべり ながら 楽しみたい	くわしく なって知識 を広げたい	写真を撮っ て思い出に のこしたい	イベントに 参加したい （ものづく り体験や じっけん教 室など）	展示品をな おしたり、 しまったり している様 子を見てみ たい	スマホやタ ブレットを 活用して、 おうちでも 博物館・美 術館のコン テンツを楽し みたい	博物館・美 術館で働い ている人の 仕事を知り たい	学校の授業 で、博物 館・美術館 を利用した い	その他
合計	96	145	186	138	177	60	45	66	64	12

その他の意見（自由記述・一部）

- ・ 何かもので思い出に残したい
- ・ ものづくりがしたい
- ・ 収蔵庫を見学したい
- ・ 自分できれいな絵を描きたい

2 アンケート集計結果（事業戦略②）

- 博物館・美術館の利用者は、新しい気づきを得られる点に魅力を感じている。
- 博物館・美術館は敷居が高く、身近に感じられる施設にしていく必要がある。
- 展示品への解説が求められており、個々の自由な考察をサポートするような体験的・直観的に理解できる内容を目指していくことが望ましい。

【博物館・美術館の好きな点（問5より・自由記述・一部）】

- ・ 自分の知らない世界を知ることができる
- ・ 本物を見ることができて、分かりやすい解説がある
- ・ 貴重な品々が保管されている

【博物館・美術館の「もっとこうなればいいな」と思う点（問7より・自由記述・一部）】

- ・ 気軽に行けるようになってほしい
- ・ 移動動物園のように、移動式美術館があるとよい
- ・ 字を読むのが苦手なため、音声ガイドがほしい
- ・ 説明文にふりがながほしい
- ・ 体験シミュレーションがあるとよい
- ・ さわれる展示がほしい
- ・ 故障中の展示物を直す

3 現在の取組（学習機会の提供）



来館しなくても学習できる機会の提供

おうちでミュージアム&ライブラリー

県立社会教育施設等のwebコンテンツを集約して発信している。

- ・ 国宝 金沢文庫文書データベースで古文書を楽しむ [金沢文庫]
- ・ 近代美術館コレクション [近代美術館]
- ・ おうちでかながわけんぱく（ペーパークラフトなど） [歴史博物館]
- ・ 歴史博物館データベース（デジタルミュージアムなど） [歴史博物館]
- ・ 学芸員の展示余話 [生命の星・地球博物館]
- ・ こどもページ（ぬりえや実験動画など） [生命の星・地球博物館]



教育機関・民間団体との連携強化

- ・ 学校主催事業への協力
- ・ 学校出張ワークショップや講座、講師派遣
- ・ 職場体験、インターンシップ受け入れ
- ・ 教員対象の講座、研修受け入れ
- ・ 近隣市町村との共催による講座、協定に基づく協力事業
- ・ 行政機関、各種団体による講師依頼

3 現在の取組（学校連携・地域連携事業）

施設名	学校連携・地域連携の取組	実施回数	参加者数
金沢文庫	中高校生特別講座	1回	13名
	県立高等学校主催・依頼事業	1回	5名
	称名寺薪能協力講座（金沢区役所との協定に基づく協力事業）	1回	96名
	金沢区との共催 金沢区民のための歴史講演会・講座	2回	177名
近代美術館	葉山芸術祭こどもプロジェクト「美術館へ行こう！」	1回	16名
	近代美術館入門講座（葉山町共催連続講座）	4回	58名
	近代美術館入門講座（逗子市共催連続講座）	4回	76名
	鎌倉文化ゾーンミュージアムめぐりスタンプラリー関連企画2024 北条政子歿後800年 5館＋1館の学芸員によるトークセッション	1回	25名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む （ワークショップ、展示室の見学会、雅楽器の演奏会）	9回	341名
	フリースクールに通う児童生徒を対象としたワークショップ	1回	7名
	県立高等学校への学校出張ワークショップ	1回	178名
	インクルーシブ事業「むすんでひらいてプロジェクト」	16回	292名
	教員向け研修（館内・館外）	5回	167名
	高校生インターンシップ	計2日間／3校	6名
	中学生職場体験	計6日間／3校	16名
	小学校、中学校、大学、特別支援学校等の来館受入れ	延べ23回	587名

3 現在の取組（学校連携・地域連携事業）

施設名	学校連携・地域連携の取組	実施回数	参加者数
歴史博物館	ミュージアム・ミッション2024（夏休みの子ども向け事業）	開催期間 7/20～9/1	延べ4,161名
	大学生向け体験講座「博物館の裏側を知ろう」	1回	10名
	高校生向け講座「浮世絵に親しむ」	1回	12名
	学んでたのしむ博物館（展示資料に関するワークシートを配布）	232日間	938名
	子ども向け体験ワークショップ	2回	50名
	小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等の利用	294校	10,951名
	高校生インターンシップ	計3日間	4名
	中学生職業体験	計4日間／4校	15名
	教員対象の講座	1回	12名
	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校への出張講座	23校 41時限	1,701名
生命の星・地球博物館	大学団体利用	24回	594名
	行政機関・各種団体等からの講師依頼	館内 31件 館外 54件	館内 929名
	理科等の教科学習・講義及び総合的な学習の時間への対応	館内 20回 館外 7回	館内 644名
	職場体験・インターンシップ受け入れ	計5日間／9校	16名
	教員の研修受け入れ	館内 1回 館外 6回	館内 36名
	幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学等の利用	560件	30,227名

3 現在の取組 (生命の星・地球博物館が目指す展示更新イメージ)

「生命の星・地球博物館 展示のあり方検討会報告書」から一部抜粋

展示に求められるもの（目指すイメージ）

- **博物館資料の魅力**がもっと伝わる展示
- 誰もが楽しく学べて分かりやすい**インクルーシブ**な展示
- 利用者が参加・体験できる展示
- 五感に限らず、**様々な感覚を使って楽しめる**展示
- 来館者の内面に問いかけるストーリー性のある展示
- 知りたい度に応じて学びを深める展示
- **デジタル技術を活用**した実物資料の魅力を高める展示
- 神奈川県の特徴や、**観光地「小田原」、「箱根の入口」の強み**を活かした展示
- 学芸員の活動を知り、**博物館バックヤード**（収蔵庫等）**への理解**を深める展示
- 維持管理や更新がしやすい展示



3 現在の取組（社会教育施設評価書）

■ 目的

第三者評価の実施により、各施設による自己評価結果の妥当性を検証するとともに、施設の運営改善に向けた取組を促進し、県民の生涯にわたる学びの支援に資するものとする。

■ 実施方法

- ・実施頻度 3年に1回（令和8年度より見直し。従前は7年に1回）
- ・実施形式 書面調査及び現地調査
- ・評価者 博物館等に関する知見を有する有識者

■ 実施年度と評価対象

令和元年度 歴史博物館 ／ 令和2年度 生命の星・地球博物館
令和4年度 金沢文庫 ／ 令和6年度 近代美術館

■ 評価指標（全館共通項目）

大柱	中柱
利用状況	・利用者満足度 ・入館者数 ・教育普及事業への参加者数 ・インターネットアクセス件数
資料・収蔵品	・活用点数 ・維持管理
調査研究	・研究成果の公開（発表、印刷物等）
情報発信	・事業情報の発信件数
施設運営等	・観覧料及び事業収入 ・施設点検 ・自己研鑽及び他館の研究

4 子どもから大人まで、誰もが楽しめる博物館を目指して

アンケート集計結果から

くわしくなって知識を広げたい

- ▶ユニバーサルデザインやデジタル技術を用いた誰もが理解しやすい解説の充実
- ▶常設展示を定期的に更新して、いつ来ても新しい発見を得られる展示づくり
- ▶利用者の知りたい度に応じて学びを深められる仕掛けづくり
- ▶デジタルアーカイブ資料の活用やオンライン講座の実施など、館外での利用機会を増やす

イベントに参加したい

- ▶申し込み不要で利用者が気軽に参加できるイベントを充実させる

写真に撮って思い出に残したい

- ▶撮影可能なエリアを分かりやすく表示し、SNS等で共有してもらう

博物館・美術館をもっと身近に

- ▶会話OKの日など気軽に楽しめる特別な日をつくる
- ▶博学連携事業をメニュー化するなど、博物館の活用方法を分かりやすく情報提供する
- ▶小・中学校、高等教育機関や県内各社会教育施設、民間団体等と連携した取組を増やすことで、来館のきっかけをつくる
- ▶地域との接点を増やし、親しみをもってもらう
- ▶ボランティアやメンバーシップの制度を強化するなど、県民との協働を深める
- ▶ランドスケープを含めた魅力を伝えるなど、多様な楽しみ方を発信する
- ▶情報発信のあり方を多様化する（Advertising, Public Relations）